

「第2期あきた文化振興ビジョン(素案)」に関するパブリックコメントへの対応について

No	区分	意見の概要	県の考え方・対応
1	方針1 施策2	県北一円に存在する「駒踊りを含む民俗芸能」の状況把握と基礎資料蓄積に向けた調査を行い、さらには国・県等による文化財指定を進めてほしい。	「駒踊りを含む民俗芸能」など県内各地の民俗文化財について、方針1施策2「文化財の保存、伝統文化などの継承と積極的な活用」において、状況把握と基礎資料蓄積を目的とした調査を進めることとしております。
2	方針4 施策12	県北一円に存在する「駒踊りを含む民俗芸能」を、個別の市町村・地域のものとして完結させるのではなく、県北一円の文化的資源として活用し、県外向けプロモーション等に活用し、誘客促進を図ってほしい。	県内各地に存在する民俗芸能等の中には、「駒踊りを含む民俗芸能」など共通の特徴があり、広域に分布する文化資源ととらえることで新たな価値や魅力の発見につながる可能性を秘めているものがあります。 方針4施策12「東京オリンピック・パラリンピック等を契機とする文化による交流人口の拡大」において、伝統文化が持つ力を活用し、県外からの誘客に結びつける取組を進めてまいります。
3	方針4 施策12	「駒踊りを含む民俗芸能」を、各地域単独のものとしてだけでなく、秋田県北部一帯の文化として、秋田県民としての意識の醸成や、地域間のつながりの強化、広域的な地域づくりに繋げられるような施策を検討してほしい。	「駒踊りを含む民俗芸能」のように共通の特徴があり広域に分布する民俗芸能等は、地域の枠を越えたつながりの強化に結びつく文化資源になると考えております。 方針4施策12「東京オリンピック・パラリンピック等を契機とする文化による交流人口の拡大」の大規模文化イベントの実施において、地域間の連携について明記しました。
4	方針3 施策9	児童生徒にとっての人間形成の面から、芸術文化に触れることが大事であり、特に子どもの頃から芸術文化に触れさせるための啓蒙が必要である。	方針3の施策9「学校における文化芸術体験の充実」において、子どもの頃から芸術文化に親しみ、創作活動等に参加できる環境づくりを推進することとしております。
5	方針1 施策1	県内の大学の協力を得て、芸術文化を推進していく必要があることから、特に秋田公立美術大学との連携を強力に進めるべきである。	方針1の施策1「企業や大学との連携による文化活動の活発化」において、秋田公立美術大学をはじめとした大学等と連携を図り、芸術文化活動を推進することとしております。
6	方針3 施策10	県に芸術文化を総合的にプロデュースでき、芸術文化について指導できるデザイナーを採用してはどうか。	様々な芸術文化や本県の文化に精通し、総合的にプロデュースできる人材の確保は困難ですが、様々な文化イベントを企画、プロデュースできる人材は必要と考えておりますので、方針3の施策10「文化活動を担う人材の育成と発表の場の確保」において、本県の文化を担う人材や指導者の育成を図るとともに、文化イベントのマネジメントを担う若手クリエイターの育成に取り組むこととしております。

「第2期あきた文化振興ビジョン(素案)」に関するパブリックコメントへの対応について

No	区分	意見の概要	県の考え方・対応
7	方針2 施策8	改修または新築を必要としている文化施設は、県民会館、秋田市文化会館のみならず、全域に存在する。それらに対する秋田県のビジョンも明記していただきたい。単に貸館的活用ではなく、如何に活用するのかの指針を明記すべきであり、秋田ならではの舞台づくり、自主事業が望まれる。	県内各地域の文化施設には、それぞれの市町村の設置目的があり役割があることから、県が統一的に新築・改築やその利用方法について判断するものではありませんが、その利用に当たり各施設間の連携は必要と考えており、方針2の施策8「公立文化施設の利用促進」において、公立文化施設の利用促進の連携を進めることにより、各施設の利用促進を図ることとしております。
8	方針1 施策3	秋田県ゆかりの偉人、事件、合戦などの歴史に目を向け、現代の県民等に知らせる事業もビジョンに盛り込んでいただきたい。	ご指摘のとおりであり、方針1の施策3「秋田の先人が育んできた文化に光をあてる取組の推進」において、先人から引き継がれてきた秋田固有の文化や秋田にルーツを持つ文化に光をあてる取組を進めることとしております。
9	方針1 施策3	日本遺産に認定された「北前船寄港地・船主集落」や昔から継承されてきたふるさとの民謡や踊りについて記載いただきたい。	秋田ならではの文化の例として、計画に明記させていただきました。
10	その他	県の文化行政の組織がバラバラに見える。県立美術館は生涯学習課、文化振興は観光文化スポーツ部の文化振興課で、県に意見や要望をする場合、どちらなのかわかりにくい。行政は県職員のためか、県民のためか改善すべき。	ビジョンの推進に当たり、庁内各課の情報共有と連携を図り、どちらの部署に意見をいただいても適切に対応できるようにしてまいります。
11	その他	文化振興ビジョンは、施策や実践事項が多すぎる。もっと県民にわかりやすく焦点化し優先順位をつけること。	当該ビジョンは、本県の文化芸術振興に向けて、行政の関与のあり方や取組の方向性を明らかにし、本県の文化芸術の振興を図る施策を効果的に展開するために策定するものであり、本県の文化振興施策の全体像を示し、総合的に推進することを策定の趣旨としております。 このため、総花的、網羅的になっておりますが、どれも必要な取組でありますので、ご理解いただきたいと思います。
12	方針4 施策13	県の施策のPRが圧倒的に足りなく、県民への理解が広まらない。単にPR予算が足りないでは済まされない。翌月の県の文化行事や企画、イベント等が分かる冊子を作成し、毎月全世帯へ配布することを提案する。	県の文化イベントについては、文化情報発信サイト「ブンカDEゲンキ」に随時掲載しているほか、観光部門とも連携しパンフレット等で紹介しております。冊子での各戸配布は経費の面で困難ですので、大きなイベントについては、様々なメディアを活用し情報発信を進めることとしております。

「第2期あきた文化振興ビジョン(素案)」に関するパブリックコメントへの対応について

No	区分	意見の概要	県の考え方・対応
13	その他	秋田県のPRは「あきたびじょん」などあいまいで明確さに欠け、全国的には通用しないものが多いが、最近の秋田犬をテーマにしたポスターは県民にとっても良い理解になっていると評価する。これくらいの水準のPRや情報発信ができればと今後期待している。	本県の文化をPRするに当たり、全国にアピールできるよう工夫して取り組んでまいります。
14	その他	現在のままの秋田県だとほとんどが全国最下位で、若者は首都圏や大都市に出て行く。惰性とは決別した危機的な積極的意識改革が必要である。20年、50年先の秋田県を危機意識を持って真剣に考えるべきである。身近な今の仕事から改善し、改善の連続をすることが必要。今後の秋田県に期待する。	ビジョンの推進に当たっては、「計画」、「実施」、「評価」、「改善」のPDCAサイクルにより、常に見直しを図ってまいります。
15	その他	本県は、日本最速で人口減少が進行している。人口減少は文化の担い手の減少、文化の喪失を意味する。このような状況において、素案の認識が甘いのではないか。文化を失っているという喪失感、危機感、未来を変える覚悟が感じられない。	人口減少や少子高齢化が進んでおりますが、普遍的な価値を持つ文化芸術の重要性はこれまで以上に高まっております。こうした中において、民俗芸能をはじめ、伝統芸能の分野では若者の担い手確保が十分ではない現状等を十分認識し、危機感を持ちながら、4つの基本方針により、それぞれの施策を推進したいと考えております。
16	その他	ビジョンの基本目標として、「日本一の無形文化の地、秋田」を提案したい。日本一を名乗ることによって、今ある17の重要無形民俗文化財の保存を確実にしようという動き、18個目を目指そうという動き、保存の質を向上させようとする動きを加速するはずで、観光客は集う。	無形の民俗文化は重要な文化の一つではありますが、本県にはその他にも様々な分野の文化があります。ビジョンの基本目標は、文化に携わる全ての人々が意識を共有できるものにしたと考え、「地域の文化力を高め、文化の力で秋田の元気創造を図る」としたものであります。
17	方針4 施策13	本県に必要なのは、男鹿のなまはげ館などの年間を通して体験できる無形民俗文化コンテンツである。「秋田の文化を体験できる通年観光コンテンツの開発」を施策に追加することを提案する。秋田に通年行きたくなるような無形文化コンテンツの開発に取り組んで欲しい。	秋田では年間を通して、県内各地で様々なお祭りや文化行事が行われております。こうした行事の多くは、観光客向けにはなっておりませんが、県としてはこうした本物の文化に触れていただきたいと考えております。そのため、方針4施策12「東京オリンピック・パラリンピックを契機とする文化による交流人口の拡大」の大規模文化イベントの実施において、国指定重要無形文化財の数が全国一である本県を国内外にアピールする伝統芸能の祭典の開催を追記させていただきました。この実施と併せ、地域の祭りの由来や知識等を学び、祭りをつくり上げていく過程も体験する「お祭り体験ツアー」を実施し、県内への誘客につなげたいと考えております。
18	その他	県の文化施策には期待している。日本で無形文化を体験するならば秋田である。これを軸にブランディングは可能であるが、チャンスがあるにもかかわらず、この先4年間何も手を打たずに伝承が失われると、観光立県化の機会を完全に失われるかもしれない。本ビジョンの立ち位置は極めて重要である。どうか頑張ってください。	本県は、人口減少など多くの課題をかかえておりますが、秋田ならではの文化資源を活かし、交流人口の拡大のつなげるとともに文化の力で地域を活性化できるよう取り組んでまいります。